

暖房ボイラー 半年で故障 集会所運営のNPO苦慮

【夕張】市所有の集施設「はまなす会館」の暖房用ボイラーが、指定管理者の「NPO法人当別町青少年活動センターゆうゆう24」に運営が引き継がれてわずか半年後の昨年十二月に故障。しかし市が修理費用も含めて運営を全面的に委託しているため、同法人は対応に苦慮している。

ボイラーは会館建設時の一九八九年から使用され、昨年十二月中旬、水をためて温めるタンクの外壁に数センチの亀裂ができて水漏れしボイラー室が水浸しになった。同法人は約五十万円かけて応急

夕張市の「はまなす会館」

本格修理に数百万円

修理し水漏れは止めたが、外壁が経年劣化し亀裂が再発する危険が大きく使用できずにいる。本格修理には数百万円かかるという。

このため同法人は、会館の有料貸し出しを原則

的にストップ。収入が途絶え、年間三百万円の光熱費など会館維持費も苦しい状況だ。同法人の大原裕介事務局長は「撤退はしたくないので、国や道などの補助金を活用し、何とかボイラーを修理したい」と話す。

ただ、自治体の施設を指定管理者が運営する場合、修繕は自治体が行うのが通例。しかし財政破たんした夕張市は、これについても指定管理者に委ねているのが実情。

これについては市内部からも「夕張への応援も込めて休止施設の運営を引き受けた指定管理者に、一方的に負担をかける仕組みは疑問だ」といった声が上がっている。

(田島工幸)



老朽化が進み故障の再発が懸念される「ゆうばりはまなす会館」のボイラー